

# 令和5年度ひろしまサンドボックス“サキガケプロジェクト”実証業務 公募型プロポーザルの候補者の選定について

令和5年6月5日  
商工労働局イノベーション推進チーム

令和5年度ひろしまサンドボックス“サキガケプロジェクト”実証業務の公募型プロポーザルについて、広島県商工労働局産業振興施策公募型プロポーザル選定委員会（以下「選定委員会」という）での審査を踏まえ、次のとおり候補者を選定した。

## 1 候補者

提出された企画提案書を基にプレゼンテーションを行い、選定委員会において審査の上、得点が上位であった次の2者を最優秀提案者として選定した。

### (1) セレンディクス株式会社

#### 【主な選定理由】

- ・ターゲット、課題ともに明確であり、消費者の共感を得られるため、市場への訴求が見込める点
  - ・成長阻害要因となる法的障壁が特定できており検証事項や実施体制が明確である点
- などが優れていると評価されたため。

### (2) 株式会社ビーライズ

#### 【主な選定理由】

- ・大学との共同開発という連携体制の確約が取れている、最初のクライアントも明確であるなど、計画性が高い点
  - ・大学間でのデータ共有は全国初の試みである点
- などが優れていると評価されたため。

## 2 会議の概要

日時	令和5年5月30日
方法	Web会議
議題	令和5年度ひろしまサンドボックス“サキガケプロジェクト”実証業務の公募型プロポーザル審査

### 3 応募者（順番は申請順）

応募者名		所在地	代表者名
A	セレンディクス株式会社	兵庫県西宮市甲陽園目神山町1番1号	小間 裕康
B	株式会社ビーライズ	広島県広島市南区松原町2-62 広島 JP ビルディング 8F	波多間 俊之
C	株式会社 One Smile Tech	神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩崎町34-27	辻 早紀
D	合同会社 JOYCLE	愛知県名古屋市中村区平池町四丁目60番地の12	小柳 裕太郎

### 4 選定状況

#### (1) 委員一覧

委員長	川野 真澄（商工労働局イノベーション環境整備担当部長）
委員	大内 貞夫（公益財団法人ひろしま産業振興機構 経営支援統括センター 常務理事）
	金田 典子（商工労働局イノベーション推進チーム担当課長（地域産業デジタル化推進担当））
	門永 吉章（商工労働局イノベーション推進チーム担当課長（イノベーション環境整備担当））
	増廣 浩二（商工労働局イノベーション推進チーム担当課長（環境エネルギー産業集積促進担当））

#### (2) 評価基準及び結果等

本プロジェクトは、社会実装や県内展開を行っていく上で障壁となる規制や、新たなルールメイクの試行が必要となる新市場の開拓に取り組むことを目的としたものであり、特に、障壁等の内容及び突破の道筋は明確であるか、また、期間内に成果を創出できるかが重要であるという観点から、審査項目の中でもとりわけ「2 実現性」「3 成長性」に重点をおいて審査を行った。各項目の評価については、次表のとおり。

評価項目	配点	応募者 (※応募者名は3のとおり)				評価及び選定理由
		A	B	C	D	
<b>1 新規性</b>	125	105	88	74	76	
<b>【革新性】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル技術を活用した新しい商品・サービスのモデルの提案であり、広く市場獲得できる可能性を秘めていること。</li> <li>日本/世界にとって初の取組となるような事業のビジョンを示せること。</li> </ul>	50	42	28	38	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>Aは、画期的な工法である一方、競合他社が進出してくる可能性も高いと評価された。</li> <li>Bは、ビジネスモデルやソフトウェアが、B以外にも可能に見え、同業他社の参入により上手いかなくなる可能性があるとして評価された。</li> </ul>

							<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Cは、これまでにない寄付モデルのアイデアは画期的である一方、用途を限定、チェックされることが好意的に認知されるか疑問であると評価された。</li> <li>・ Dは、既にある技術の組み合わせであり、革新性に乏しいと評価された。</li> </ul>
【将来性】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ターゲット顧客像と課題は明確かつ妥当であること。</li> <li>・ 解決策が対象とする社会課題性・ニーズの具体的な市場規模を示せること。</li> </ul>	75	63	60	36	48	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aは、ターゲット、課題ともに明確であり、消費者の共感を得られるため、市場への訴求が見込めると評価された。</li> <li>・ Bは、ターゲット、課題ともに明確であるため一定のニーズは見込めるが、社会的ニーズ、課題解決の点からは今一つ弱いと評価された。</li> <li>・ Cは、寄付の主な阻害要因は経済面であるため、不信感を解消するだけで寄付市場の拡大に繋がるか不明であると評価された。</li> <li>・ Dは、課題設定は斬新だが、定量的な比較ができるデータエビデンスが不十分であり、実証、導入となるとハードルが高いと評価された。</li> </ul>
<b>2 実現性</b>		175	138	118	80	84	
【確実性】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最初に購入してくれる 1 人目の顧客が想定できていること。</li> <li>・ 目標達成に必要な、かつ、計測可能な KPI が設定され、期間内の成果創出をし得る内容であること。</li> <li>・ 開発/顧客の難易度を踏まえた、プロダクトの発展ステップが描けていること。</li> </ul>	100	84	76	44	48	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aは、初期のプロトタイプから最終販売モデルに向けて事業計画が明らかであり、将来的な顧客についても確保の見込みは高いと評価された。</li> <li>・ Bは、大学との共同開発という連携体制の確約が取れている、最初のクライアントも明確であるなど、その計画性が評価された。</li> <li>・ Cは、実装スコープが壮大であり、まずは小さい範囲での実証が必要であるものの、相手方との協業プランの解像度が低いと評価された。</li> <li>・ Dは、IoT 機能を付加する実証・事業計画の解像度が低く、安全性の確保に対する懸念が払拭できないと評価された。</li> </ul>
【持続性】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検証期間において、本事業に集中して実施可能な財務状況であること。</li> <li>・ 今後の資金調達計画は明瞭であり、また具体的に進める手がかりを持っていること。</li> </ul>	75	54	42	36	36	
<b>3 成長性</b>		150	108	72	78	66	
—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな市場の開拓に向けた、成長阻害要因となる法的制約や商慣習等の障壁が調査済みであること。</li> <li>・ 上記制約を突破する方法を追求してい</li> </ul>	150	108	72	78	66	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aは、成長阻害要因となる法的障壁が特定できており検証事項や実施体制が明確であると評価された。</li> <li>・ Bは、大学間でのデータ共有に対する規制内容が明確ではないものの、全国初の試みであることは評価</li> </ul>

	ること。 ・ プロダクト・サービスの実現に向けた推進力を保有し、必要な体制が明確であること。						された。 ・ Cは、規制緩和、ルールメイク、いずれとも関連がやや低いと評価された。 ・ Dは、実証計画が具体性に欠けており、事業の遂行に不安が残ると評価された。
<b>4</b>	<b>費用対効果</b>	50	28	30	22	22	
—	経費の内訳が明確であり、事業内容に見合った額であること。	50	28	30	22	22	
	合 計 点 数	500	379	308	254	248	

※本結果は、5名の委員の合計点によるものである。